

# 道徳教育を校内で推進するための組織マネジメント

## — ログ・ラダーの開発を通じて —

学籍番号 189956

氏名 村田 裕司

主指導教員 長谷川和弘

### 1 課題と目的

事例市には、「歴史的に見ても道徳教育並びに道徳科（以前は「道徳の時間」）が重要視されてきたとは言いがたいために、道徳教育推進教師に任命された教員にも道徳教育並びに道徳科の実践経験が豊富であるとは言いがたえず、それゆえに、校内においても十分な推進ができていない」という課題をもつ中学校が複数存在する。

そのため、本研究は「道徳教育推進教師が、自校の学校の状態を判断できるための図を作成することと、校内の状態に応じた働きかけを文章にまとめること」と、「それを活用した研修の実践」により事例市の課題を改善するための、ログ・ラダーの有効性を明らかにすることを目的として、指導主事の立場から検討する。

### 2 研究の方法

#### 《1》 ラダー（第1次試案）の作成

【目的】 道徳教育推進教師が、自校の学校の状態を判断できるようにする

【取組み】 A指導主事が教諭時代に道徳教育推進教師であった経験を基に、学校の構成要素を、①道徳教育推進教師、②校内委員会1（道徳教育委員会）、③校内委員会2（校務分掌等）、④学年団、⑤管理職、の5つに分け、道徳教育並びに道徳科の推進具合によって、学校の状態を3段階に分けて図示する。この図示されたものを「ラダー（Ladder；階段、梯子）」と呼称する。

#### 《2》 ラダー1～3（第1次試案）を活用しての研修

【目的】 作成したラダー1～3（第1次試案）を活用して研修を実践することで、その有効性を検証する

【取組み】 道徳教育推進教師の悉皆研修において、参加者自身が自校の状態を振り返り、捉え直す機会とする。最初に個人ワークとして、ラダー1～3（第1次試案）の全体図と、構成要素を個別に示した表を配付し、参加者がそれぞれの構成要素について、自校の状態に最も近いものを選択し、それを組み合わせて各校の全体図を作成させる。その後、その図を用いてのペアワークを実施して、意見交流を行う。

#### 《3》 ラダー1～3（第1次試案）の検証と改善

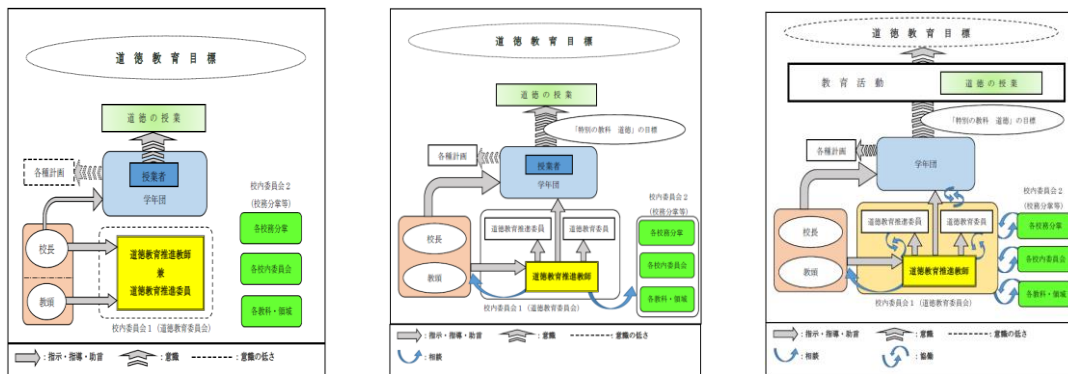
【目的】 ラダー1～3（第1次試案）の課題を検証し、改善することで、より使いやすく、分かりやすく、実用的なものへとする

【取組み】 ラダー1～3（第1次試案）を活用して実践した「道徳教育推進教師研修」の研修後に提出、あるいは聞くことのできた感想を参考にして、①見やすく、②分かりやすく、③目的、の3つの視点からラダー1～3（第1次試案）を検証し、ラダーの第2次試案を作成する。

#### 《4》 ログ・ラダー（第2次試案）の作成

【目的】 道徳教育推進教師が、自校の学校の状態を判断できるようにするとともに、現状における校内での働きかけを理解できるようにする

【取組み】 第1次試案のラダーを使用した研修後の検証を基にラダー1～3について、①学校の状態を判断するチェックリスト、②学校の状態を表した組織図、③学校の状態に対する道徳教育推進教師の働きかけを示した文章、を作成する。また、①と②を合わせて「ラダー」、③を「ログ（Log；情報、記録）」と呼称する。そして、これらを総合して示される表を「ログ・ラダー」と呼称する。



#### 《5》 ログ・ラダー（第2次試案）の検証

【目的】 ラダー1～3（第2次試案）の課題を検証し、改善することで、より使いやすく、分かりやすく、実用的なものへとする

【取組み】 中教研道徳部に所属している教員に、第1次試案改善時の3つの視点を伝え、それを基に第2次試案の検証を受ける。

### 3 まとめと今後に向けて

本研究の結果、道徳教育推進教師が自校の状態を判断し、その状態に対して推進を進めるために、ログ・ラダーは一定の効果を有していることが分かった。その効果としては、①学校の状態を図示し、可視化したことでイメージを持ちやすくなったこと、②構成要素に対する道徳教育推進教師の働きかけを示したことで、具体的な取組みが図れるようになったこと、が挙げられる。

今後は、道徳の教科化に伴って道徳教育並びに道徳科への意識が高まり、学校の状態も向上していくことが予想される。そこで求められる道徳教育推進教師の働きかけも当然変化してくる。そのため、ログ・ラダーの改善（更新）は継続され続けなければならない。